

# 戦場となったわたしたちの町

1 対象学年 小学3年生

2 ねらい 来年で戦後70年の節目を迎えようとしている。日本は終戦以来、他国からの攻撃にさらされることなく、平和な時代を過ごすことができている。しかし近年、近隣諸国との領土問題や集団的自衛権行使容認の閣議決定など、平和を脅かしかねない事象がみられる。今こそわたしたち教員は、子どもたちに戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えていかなければならない。しかし、これからの子どもたちにとって、戦争は曾祖父母の世代の話になり、戦争を身近に感じたり、自分の身の回りで起こったらどうなるかと考えたりすることが難しくなっている。平和な時代が長く続いているのはすばらしいことだが、戦争の恐ろしさや悲惨さを想像できなくなったり、平和の尊さを忘れてしまったりすることは、あってはならない。

そこで本実践では、今子どもたちが住んでいる町の戦時中の様子がわかる資料を用いて、自分が住む町でも戦争があったのだということを知らせる。そして、戦争を自分事(※)として考えたり、悲惨な行為を繰り返してはいけないという不戦の思いをもったりすることができるようにしたい。

※自分事…他人事の反対の意。世の中の出来事を自分の身に置き換えて考えることとする。

## 3 指導の流れ

### (1) 準備

「焼け跡に立つ虹」より「名古屋大空襲」を紙芝居にしたもの、戦時中と現在の学区写真、焼夷弾の模型、戦災概況図、焼夷弾が燃える様子の映像資料、ホワイトボード、マーカー、ワークシート

### (2) 指導計画

時間配分	学習活動	指導上の留意点
5分	1 戦時中と現在の本校の学区写真を見比べ、気付いたことを発表する。 [昔 1940年代]  [現在 2010年代] 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学区の同じ場所で撮影した写真を用いる。</li> <li>○ 戦時中と現在の学区写真を見比べ、家の造りや道の舗装などについて、違いに気付けるようにする。</li> <li>○ 戦時中は、木造の建物が多いことをおさえる。</li> </ul>
10分	2 焼け跡に立つ虹 P92「名古屋大空襲」の紙芝居を鑑賞する。  	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紙芝居にして、町が燃やされる様子や人々が逃げ惑う様子を感じ取りやすいようにする。</li> <li>○ 木造の建物が多い町を攻撃する兵器として、紙芝居の中に登場した「焼夷弾」があることをおさえる。</li> </ul>
10分	3 焼夷弾について知る。	

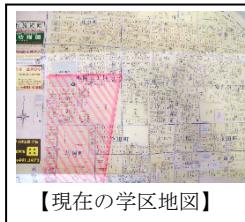
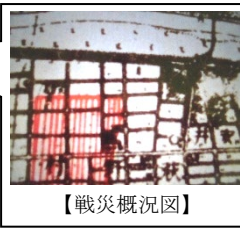
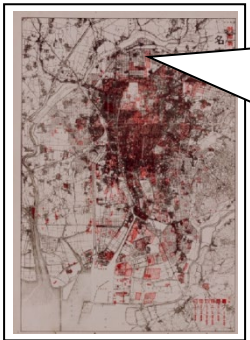
・ 焼夷弾の模型



・ 焼夷弾が燃える様子の映像資料



・ 名古屋の戦災概況図



10分

4 戦争のよくないところを考える。

- ペットボトルで作成した模型を提示する。(直径8cm、長さ50cm、重さ2.4kg)
- 教員が模型を机の上に落とし、子どもたちが焼夷弾が落ちたときの衝撃を想像できるようにする。
- 模型を子どもたちに持たせて、大きさや重さを実感できるようにする。
- 1つの焼夷弾から48個の子弾が出ることを伝える。
- 焼夷弾の子弾1個で、家が1軒、3分程度で燃えることを映像で伝える。
- 映画やドラマでは、建物が燃えた場面が多いが、実際には、建物に落ちることだけではなく、道路を避難している人に直撃し、突き刺さり、そのまま炎上したという目撃証言もあることを伝える。

- 国立公文書館デジタルアーカイブから「戦災概況図(名古屋)」を引用して、自分の学区も被災していたことをおさえる。
- 現在の学区地図と重ねて提示する。
- 子どもたちのつぶやきや発言、表情から自分事として、戦争について考えを深められているかをつかむ。

【予想される子どもたちの発言例】

- ・ わたしの家のあるところだ。
- ・ ここも燃えてしまったんだね。
- ・ ひどいな。
- ・ ここに住んでいた人が、かわいそう。

10分

5 不戦の誓いの文を書き、発表する。

ぼく・わたしの「戦争をしない」ちかいの文

ぼく・わたしは、戦争をすると

\_\_\_\_\_ と思います。

だから、ぼく・わたしは、

\_\_\_\_\_ したいです。

- 戦争をするとどんなよくないことが起こるかを考え、ホワイトボードに書いて発表させる。
- 全員のホワイトボードを黒板に掲示する。
- 今までの資料から、戦争の悲惨さを想起させる。
- 自分が感じたことや、戦争について考えたことを不戦の誓いの文にまとめさせる。
- 数人の子どもたちに発表させる。

#### 4 実践のまとめ

##### (1) 戦時中と現在の本校の学区写真を見比べる

子どもたちが戦争を自分事として考えることができるように、身近な場所の昔と現在の写真を見比べた。子どもたちは、同じ場所に用水路が写っていることや、写真の奥の方に神社があることから同じ場所であることをつかみ、家の造りや道の舗装の違いなどに気付くことができた。また、教員の発問によって、木造の建物が多いことをおさえることができた。

道路が土でできているね。

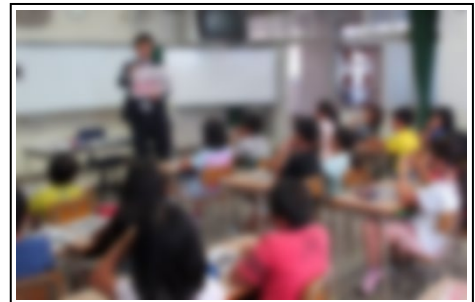
家は木でできている



【学区写真を見比べる子どもたち】

##### (2) 焼け跡に立つ虹「名古屋大空襲」の紙芝居を鑑賞する

空襲の場面では、子どもたちから「たくさん爆弾を落とってる」「知ってる。B29っていうんだ」「町が真っ赤に燃えているよ」というつぶやきが聞かれた。聞き終わった後、話の内容を尋ねると次々に手が挙がり、内容を理解できていることがわかった。戦争体験記「焼け跡に立つ虹」を紙芝居にして、子どもたちに提示したことは戦時中の状況を理解させる上で有効だったと考える。



【紙芝居を聞く子どもたち】



【「焼け跡に立つ虹」の紙芝居（一部）】

##### (3) 焼夷弾について知る

戦争の悲惨さを具体的に想像することができるように、紙芝居に登場する焼夷弾という兵器に焦点を当てた。焼夷弾の模型を実際に持たせると、子どもたちから「重たい!」「これが爆発するの?」などと、実感をもとに焼夷弾の威力を想像していることがわかる発言が聞かれた。また、戦災概況図と現在の学区地図を重ねて見たときには、子どもたちから「ああ、私の家の場所!」「ぼくの家にも落ちたんだ」などの発言が聞かれ、戦争を自分事として考えることができている様子だった。

これが爆発するの?

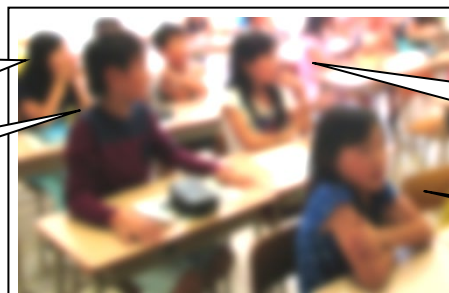
こんなに重たいの!?



【模型を持つ子どもたち】

ああ、私の家の場所!

ぼくの家にも落ちたんだ。



先生、ロシアでは今も戦争しているんでしょう?

こわい、こわい。

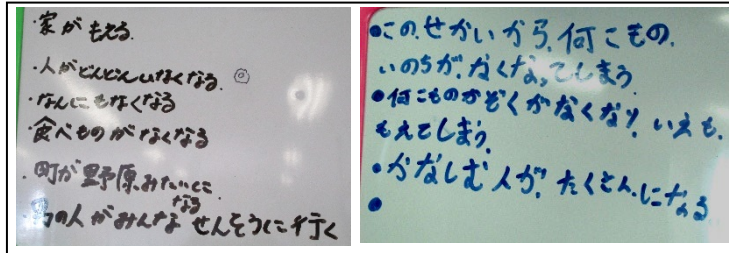
【自分の学区が戦災に遭っていたことに驚く子どもたち】

(4) 戦争のよくないところを考える・不戦の誓いの文を書く

授業のまとめとして、戦争のよくないところや不戦の誓いの文を書かせた。多様な資料を用いたことで、子どもたちが戦争のよくないところを考えやすくなった。



「人が死んでしまう」という一般的な内容だけではなく、「友達や家族が死んでしまう」というように自分事として考え【戦争のよくないところを考える子どもたち】られたものが多かった。多くの子どもたちが「戦争は絶対にしてはいけない」という思いをもつことができたと思う。



【不戦の誓いの文を発表する子どもたち】

【子どもたちが考えた戦争のよくないところ】

<p>ぼく・わたしは、戦争をすると</p> <p>家などはいなくなると家もなくなると せんそうをしてもなんにもとくはない、と思います。</p> <p>だから、ぼく・わたしは、</p> <p>せんそうを しない国に したいです。</p>	<p>ぼく・わたしは、戦争をすると</p> <p>せんそうを するとともに大切なものが なくなってしまうからせんそうは、 と思います。</p> <p>だから、ぼく・わたしは、</p> <p>いい暮らしを したいです。</p>
<p>ぼく・わたしは、戦争をすると</p> <p>友達や家族、かっている動物などの 命がなくなる、と思います。</p> <p>だから、ぼく・わたしは、</p> <p>命をそまつにせず命を大切 に したいです。</p>	<p>ぼく・わたしは、戦争をすると</p> <p>身近な人が死んでしまう と思います。</p> <p>だから、ぼく・わたしは、</p> <p>大きくなってそれだけいじむになってせんそう のない国に したいです。</p>

【子どもたちが考えた不戦の誓いの文】

5 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- 紙芝居、模型、写真、映像と多様な資料を提示したことで、子どもたちは戦争の悲惨さを想像しやすくなった。また「焼け跡に立つ虹」を紙芝居化したことで、伝わりやすくなった。
- 多くの子どもたちが、戦争を自分事として考えることはできたが、「戦争をなくすために、自分は何をするのか」という具体的な行動にまで考えを深めることはできなかった。

6 今後について

平和な時代が続いている今だからこそ、子どもたちが戦争や平和の大切さについて考える機会を設けていかなければいけないと考える。今後も、ねらいに合ったよい資料を提示して、子どもたちがより深く考え、平和の大切さに気付くことができるような実践を続けていきたい。